

# 金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

## わたし色

生活情報誌「悠悠と」  
編集長・真鍋康利さん



# 後継問題 どこも大変ですね

つい先日、新元号の令和となり、大騒ぎした5月でしたが、早くも6月です。月表記のカレンダーをめくるときはいつも、ああもうひと月も経ったかとあせんとしてしまいます。自分自身、少しは前に進むことができたか心配です。

この時期はいろいろと異動のニュースが届きます。昇格や職場内の配置転換、転勤のあいさつなど喜ばしいニュースもあり、皆頑張っているなとうれしく思います。半面、退任の文字も見えて感慨にふけることもあります。

個人的なあいさつ状も届きます。私の友人らは年齢的に定年退職の報告が多く、誰の便りを見てもしみじみし、第二の人生をどうするのか気にもなります。うらやましい内容もあるのですが、中には体調不良の報告もあります。



スパッと辞めてしまっただけから悠々自適。旅行や趣味、家族との時間を大切にしていこうとあるのは、経済的にも恵まれた方でしょう。日本各地、世界各地の旅行先から届くはがきの文字も躍っています。こうした方は貯蓄も年金も潤沢なようです。若いうちから一生懸命稼いできた成果と言えます。喜

々としてお孫さんの話題を添えるのも特徴です。

「こんな仕事を頼まれた」と言う方は、これまで周りから評価される仕事をしてきたのでしよう。「少しのんびりしたいと思っていたのに……」と言いつつももうれしそうに聞こえます。シニアにとって役割があることは大変重要、もちろん彼なら間違いない期待に応えるはずですよ。



近所でも、町内会報を丁寧に作る人、通学時に子供を見守る人、公園を清掃する人など、たくさん目にします。やはり年配の皆さんが目立ちます。功成り名を遂げた

のでしよう、とにかくその姿勢と馬力に頭が下がります。

中小企業の経営者で事業承継問題に直面している友人もいます。後継をどうするか、適当な親族はいるか、また親族でなくとも将来を託すことができる人材を育ててきたかなど、悩みは多いようです。この後継問題を解決しなければまだまだ一線を退けない、と言います。

なじみのお店でも後継者がおらず閉店するという話があります。寂しいと思うものの、続けていくことの大変さも想像できてこれまたしみじみしてしまいます。

いつまで今の仕事ができるか、その後どうするか、私自身も悩みの真っ最中です。いざれにしてもまず健康第一と言いつつもはいるのですが、後継問題に悩む友人と話すたびに深酒になってしまっています。今日この頃です。